

令和6年度上田市立南小学校 学校自己評価シート(総合報告)

学校目標				めざす子ども像 ～ 笑顔輝く南っ子 ～		総合評価											
あ た だ し く あ た た か く	1 すすんで勉強する子ども 【た だ し く】 2 体をきたえる子ども 【つ よ く】 3 がんばりぬく子ども 【つ よ く】 4 自分で決めて行う子ども 【た だ し く】 5 思いやりのある子ども 【あ た た か く】					子どもたちは、明るく穏やかに過ごしており、児童会祭りや縦割り班の活動、なかよし清掃等の児童会活動や各学年行事での異学年交流では、お互いの良さを認め合う児童の姿が多く見られた。 「全校職員で全校の児童を見守る」という意識の中で、チーム支援を大切に指導したり、良さを認めたりする職員集団を構築しようと努めてきた。あいさつや清掃など、課題として上がってきているものについては、全職員で共通理解図り、今後も足並みをそろえた指導を行っていきたい。											
	今年度の重点目標(重点活動)					成果と課題				A	B	C	D	改善策・向上策			
	知:正しく	わくわく学び合い		自分の考えを持ち表現する			「自分の考えを持ち表現する」ことに特に重点をおき、取り組みを進めてきた。授業でペア・グループ学習を意図的に取り入れたことで、自然と話し合ったり相談とし合ったりする姿が見られるようになった。更に意見を交換していけるような授業を考えていきたい。清掃やあいさつへの取り組みについては、全体としてはよく取り組めているが、「自分から進んで」という点についてはまだ課題があるので、よりよい姿をめざしていきたい。					○		あいさつ・清掃・安全については、職員共通理解のもと、丁寧に指導をしていく。良い姿を認め、広めていけるように意識していく。活動のめあてや意義、方法などを理解できるような説明や資料を用意し、児童が主体的に取り組めるようにしていく。			
	徳:温かく	にこにこ響き合い		自分から進んであいさつする								○					
体:強く	どんどん磨き合い		根気よく清掃に取り組む				○										
領域	対象	評価項目			評価の観点			成果と課題				A	B	C	D	改善策・向上策	
教育活動	学年・学級経営	気づき清掃の推進・奉仕精神の醸成			ひぎつき清掃など、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにすることで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。			清掃の取り組み方には個人差があり、時間を意識して意欲的に取り組む姿がある一方、おしゃべりが多い児童がいる。集中して取り組むことができるように「気づき清掃」に目を向け、達成感を味わうことができるようにしたい。なかよし清掃を行うことにより、高学年は低学年の見本になることでより意識して清掃に取り組み、低学年は高学年の姿に学ぶことができた。					○			分担や内容を見直したり具体的に示したりし、具体的な目標を作っていくことで、より集中して取り組めるようにしていきたい。職員も児童と一緒に清掃することを続けていく。また。振り返りの時間を設け、良い姿を伝え合ったり、気づき清掃をできたことを発表したりし、達成感を味わえるようにしたい。人のために自分が行動することで良い気持ちになる体験を積み重ねていく。そのためにも、人にしてもらったお互い「ありがとう」を伝える習慣にしていく。	
		規範意識の高揚と危機管理意識の向上のための指導			校内生活で「右側廊下歩行」の徹底をさせて規範意識の高揚を図れたか。通学時に「道路横断前後の立ち止まり（確認・挨拶）」を意識付け、実践させることはできたか。			「廊下歩行」については、移動教室などでは右側通行を徹底できているが、休み時間になると廊下を走ったり、必要なところで立ち止まったりすることができていない姿があった。なぜ「右側廊下歩行」するのか、再確認する必要がある。ほとんどの児童が安全に通学できているが、個々で見ると危ない歩き方の児童がいるので、引き続き歩き方や交通ルールの確認をしていきたい。					○			「廊下歩行」については、児童会の当番活動だけでなく、職員全体で声をかけていく。課題を感じたときには学年で揃えて指導を行っていく。また、学級で話し合いをして意識改革をし、子ども同士で声かけができるようにしていきたい。継続して交通ルールや安全についての指導をしていく。特に低学年では通学時の様子を見て必要があれば職員が付き添うなど細やかに指導していきたい。	
		気持ちのよいあいさつの充実と返事の徹底			積極的な声かけや児童会活動との連携で、気持ちのよいあいさつや返事のよさを自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。			児童会の取り組みや6年生のあいさつ活動、各クラスの工夫した取り組みのおかげもあり、全体的には朝の挨拶は良くてきている。一方、個々を見るとまだまだ挨拶や返事をする習慣が定着していない姿も見られる。自己の挨拶の評価や成長の自覚ができるように高めていきたい。					○			自分から気持ちの良い挨拶をしたり、挨拶を返したりする子どもたちの姿を認め、広げてく。また、なぜそうするのかなどの挨拶の意義についても時々確認し、挨拶の質を高めていきたい。	
		響き合う歌声や交流活動による認め合える仲間づくり			仲間と歌声を響き合わせたり、異学年や地域の方々とのふれあい交流を行ったりすることで、互いに認め合える集団づくりを進めているか。			児童会祭りでは、高学年が責任をもって低学年をリードする姿があり、達成感・自己有用感を感じることができていた。音楽集会で全校一緒に歌声を響き合わせたことで、楽しさや気持ちの良さを感じるとともに、それぞれの学年の良さを感じ合う活動となっていた。また、「交流活動」という人との関わり合いが難しい面もあった。					○			朝の時間に歌ったり音楽集会を工夫したりし、歌うことへの意識をさらに高め歌声を広めていく。計画的に異学年交流の場を設けていきたい。人との関わり合いが難しい面に関しては、まずは学級の中でお互いを認め合う関係作りを大事にし、そこから異学年や地域へと関わりを広げていく。	
	学習指導	授業のユニバーサルデザイン化・南小スタイルの推進			校内及び教室環境や教材の整備ができたか。「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。			ホワイトボードやマグネットを使って授業の流れや必要な物を視覚的にわかるようにしてきた。どの子にも見やすい板書づくりを意識することができた。前時を振り返るときにまとめを見直す児童が増えてきた。					○			今後も一時間の流れがわかる板書を心がけたり、一人ひとりの様子に気を配りながら教材を作っていく。また、職員間で授業を見合って学んでいくこともしていく。	
		じっくり考え、しっかり書く振り返りの時間の確保			1時間で学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。			まとめと振り返りの時間を確保できるよう意識してきた。子どものそれぞれの学びを認めたり褒めたりすることで「楽しかった」「ここがわかった」など、意欲を高めたり自信を深めたりすることができた。一方、しっかり記述できるような時間の確保ができていないところもあった。時間配分に気をつけながら授業を計画していきたい。						○		授業の終わり近く5分は「まとめ」「ふりかえり」の時間として確保していく。選択式や、声でのやり取りでも良いので、限られた短い時間の中でも振り返ることができるようにしていく。	
		基礎基本の定着・家庭学習の充実			ドリルや学びの時間で、つまずきを把握して、丁寧な指導を行い、基礎基本の定着を図れたか。「家庭学習の進め方」をもとに家庭と連携した家庭学習の充実に努めているか。			基礎基本の定着のために、個別に対応できるよう努めている。日々の積み重ねを大切にしてきた。家庭学習については、内容や量を工夫して取り組みやすいようにしてきた。保護者の方にも協力いただき、多くの児童は毎日家庭学習に取り組むことができた。					○			個々に応じた授業内での支援を充実させていく。家庭学習については、今後も保護者の方にも協力をお願いしていく。家庭学習の内容については、もっと自主的に学習ができるような課題を出していくなどの工夫を考えていく。	
		わからないことを聴き合い、考えを伝え合い、学び合う授業づくり			ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合い、それを伝え合いたくなる学習場面を設定しているか。			ペア活動やグループ活動の機会を増やすことで、わからないことを聞いたり、教え合ったりする姿が見られた。更に授業の中で気軽に学び合える関係を作り、友だちの意見を聞いて次につながるようになっていきたい。一方、発表の段階でつまずく姿も見られたので、考えを上手に引き出す方法を考えていきたい。					○			今後もペアやグループを活用する場面作りを意図的に行っていく。どういう目的でペアやグループ活動をしているのか確認してから活動に入るなどし、必要感をもって活動に取り組めるようにしていきたい。	
地域との連携	学校作り	信頼関係でつながる学校づくり			学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子どもの様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。			通信を活用して学校の様子を保護者の方に伝えることができた。個別希望懇談会には多くの方に参加していただき、日ごろの様子や今後の支援などについて共有することができた。					○			今後も良い姿や学級全体としての姿、子どもたちのやり取りの様子などを学年通信や学級通信などで伝えていく。心配なことがあるときには、保護者と連絡をとり、共有することを大切にしていく。	
		南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の 確立			地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携してメディアと向き合う時間・家庭学習時間・就寝時刻等の固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。			グッドメディアデーがあることで、生活時間を見直すきっかけとなっているが、3点固定の生活習慣を意識づけるまでには至らない面がある。特にメディアとの付き合い方については、家庭の協力が必要であり、家庭への働きかけを意識していきたい。					○			メディアとの付き合い方について、保護者向け、あるいは子どもと保護者が一緒に学び合える学習会を行うなどし、家庭への啓蒙活動を行っていく。そして生活習慣が気になる児童については家庭と情報交換を継続し、指導を行っていく。	

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった